

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 8月28日

【評価実施概要】

事業所番号	3670100936
法人名	医療法人 明和会
事業所名	グループホーム フェニックス
所在地	徳島県徳島市国府町井戸字左ヶ池39-1 (電話) 088-642-3646

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 8月 23日

【情報提供票より】(平成19年 8月 6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年 3月 21日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤	12 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 6 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,100 円	その他の経費(月額)	光熱水費7,350円 その他実費
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	210 円	昼食 315 円
	夕食	315 円	おやつ 105 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(8月 6日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 86.3 歳	最低	80 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田蒔病院 ・ 湯浅歯科医院
---------	---------------

徳島県 グループホームフェニックス 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

窓から眺める田園風景は心を和ませ、昔の記憶を思い起こすような穏やかなたたずまいがそこには感じられ、利用者職員が信頼関係のもと日々の暮らしが営まれている。ホームでは家庭的な雰囲気作りにとりくまれ、一日3食の食事作りを毎日、材料の買い出しからはじまり、調理、食事、片付けと、作る喜びや買い物に行くことでの気晴らし、人と会う楽しみとしてとらえ、生きる喜びにつなげている。また、外出の機会を多く作り、笑顔で接する職員と管理者との連携プレーでうまくホームの運営にあたられている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回、入居者の権利・義務の記載がされていなかったが、今回、改善されており契約書に明確に記載されている。介護計画の様式の中に、長期・短期目標を記載する項目が無かったが、今回改善されており、様式の整備が図られている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価に取り組み作成されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、第三者評価についての説明やホームでの取り組みについて討議されている。また、討議した内容をホーム内に掲示し、参加されない家族や関係者には報告書を作成し、送付すると共に会議の意見をサービスの質の向上につなげるよう取り組まれている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	常に意見の言いやすい雰囲気作りを心がけ、職員の側からも積極的に意見を聞く努力や場面づくりがされている。利用者の日々の暮らしぶりを写真に納め、パソコンに取り入れて、訪れた家族の方に見てもらい、遠方の方には手紙や電話で報告されている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	小学校、幼稚園児との双方向の交流や、地元スーパーの店員さんと買い物を通じて顔見知りとなっている。また、地域の祭り等への行事の参加など地域の一員として、交流を図る機会を多くもち、自然体でのつきあいがされている。

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員が理解しており、今年度はじめに全職員で話し合い、新たに地域の中で生活することをメインとし、暮らしを支える理念がつけられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ユニット毎のミーティングで、理念について話し合い、言葉かけや態度等、日々のサービスに理念が反映されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校、幼稚園児との双方向の交流や、地元スーパーの店員さんと買い物を通じて顔見知りとなっている。また、地域の祭り等への行事の参加など地域の一員として、交流を図る機会を多くもち、自然体でのつきあいがなされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員に「自分なりにできることは」等とアンケート方式で問いかけ、全員で自己評価に取り組んでいる。また、前回の評価結果を点検し、改善され質の確保・向上に取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での内容をホーム内に掲示し、参加されていない家族には報告している。グループホーム関係者には報告書を作成して送付すると共に、会議の意見をサービスの質の向上につなげるよう取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険証の更新時や実地指導、その他必要に応じて市の担当者と連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の方の日々の暮らしぶりを写真に納め、パソコンに取り込みスライドショーと題して、訪れた家族に見てもらい報告されている。また、遠方の方には手紙や電話によって報告がされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に意見等が言いやすい様な雰囲気作りを心がけ、意見箱も設置されている。また、職員の側からも意見等を積極的に聞く努力や場面づくりに取り組まれている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員を固定して顔馴染みの関係をつくり、継続的に支援されている。職員が異動する場合は、引き継ぎを丁寧に行いできるだけ利用者に影響が出ないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	四国交流フォーラムや、全国大会での研修等に参加し、職員の質の確保や向上に向けた取り組みが積極的になされている。また、段階的、計画的な研修受講体制が作られており、勉強会で報告もされて、全員で内容を共有されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会を通して他のグループホームと交流を図ることが多く、勉強会での事例検討を通してサービスの質の向上に努められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの見学や食事を共にしたり、また、体験入居など、利用者の視点に立ち、除々になじみながら、本格的な利用に移れるよう十分に家族や本人と話し合わせ、利用開始の調整が行われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員の平均年齢が30才と若く、利用者の平均年齢が86才であり、孫と祖父母のような関係である。調理の仕方や昔の戦争体験の話など、利用者から学んだり、共に支え合う関係が自然とできている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で一人ひとりに声かけを行い、希望や意向の把握につとめられている。困難な方には家族と情報を交換し、本人本位に検討されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の視点に立った計画となっており、面会時に家族の方とよく話し合い気づきや意見等が反映された計画作りがなされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化や利用者・家族の方の要望があった時は、その都度見直しが柔軟にされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の要望に応じて、状況等をふまえながら、通院・送迎など必要な支援が柔軟になされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族が希望するかかりつけ医への受診ができるよう支援されていた。状況によっては、家族の方の同行も得るよう契約時に説明し、同意を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に対する看取りに関して指針や同意書を作成し、利用者が安心して生活ができるよう前向きに取り組まれている。また、必要に応じて家族と話し合い、方針の統一が図られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを傷つけないよう全職員が配慮しており、秘密保持の徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者の体調や気持ちをくみ取り、散歩に出る等、望んでいるペースに合わせた暮らしの支援が柔軟にされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、職員と利用者で買い物に行き、調理、食事、片付けなど、利用者個々の力を活かしながら職員と一体となって取り組んでいる。家庭生活そのものの取り組みがされ、それによって利用者の方が大変おちついて過ごされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個別に合った入浴支援がされており拒む人には言葉かけやチームプレイで夕食後などの入浴支援もされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	編み物の得意な方、洗濯物干し、草ぬきなど役割がある。また、生活の中心が食事作りであり、その中で調理する喜び、買い物で外出する気晴らし、人と会うよろこび等々、一人ひとりの役割、楽しみごとを作り出す働きかけができています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物等日常的に外出する機会やなじみの理髪店、そしてドライブ、外食等積極的に外出する機会をとらえて支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	今年度から玄関の鍵をかけないケアに取り組まれており、ユニットの出入り口にセンサーを設置し、出入りを把握されている。必要に応じて職員が付き添うなどの環境づくりに取り組まれている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、母体との訓練を実施しており、防災研修や防災センターへ利用者と共に体験に出かけるなどの取り組みがされ、地域の方にも協力を呼びかけられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量、水分量がチェックシートにより把握されている。食事の形態も個々に応じた支援がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りには季節の花が植えられ、共用空間にはソファや畳のコーナーがあり、思い思いの時間が過ごせる配慮がされている。また、場所間違いをしないよう、居室やトイレなどに利用者の目線にあわせた表示がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者、家族と相談し、使い慣れた寝具や食器などを持ち込むことによって安心できる居室作りがされている。		